

令和 8 年 7 月 3 1 日

## 特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

令和 8 年度病虫害発生予察 特殊報第 1 号

- 1 病虫害名      チュウゴクアミガサハゴロモ (*Pochazia shantungensis*)
- 2 発生作物      キウイフルーツ
- 3 発生確認の経過及び被害状況
  - (1) 令和 8 年 6 月に県内のキウイフルーツ園において、ハゴロモ類の幼虫とみられる寄生を確認した(写真 1)。なお、本虫による現地のキウイフルーツの被害は確認されなかった。
  - (2) 上記幼虫を病虫害発生予察室室内において飼育し、羽化した成虫を農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモであることが判明した。
  - (3) 本虫は中国原産の害虫であり、国内では平成 29 (2017) 年に大阪府で初めて発見されて以降、本州、四国及び九州の各地で発見され、令和 8 年 7 月 3 1 日時点で、29 都府県から特殊報が発表されている。なお、九州では、福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県で発生が確認されている。
- 4 本種の形態及び生態等
  - (1) 成虫の体長は 11～15mm。一般的に雄は雌よりもやや小さい。頭部は明褐色～暗褐色。前翅は茶褐色～鉄錆色のろう物質の粉をまとい、前翅前縁中央部には三角形の白斑がある(写真 4)。幼虫は白色で、黄色～褐色の斑紋や黒点を持つ。各齢期とも腹部から白色糸状のろう物質の毛束をまとい、放射状又はクジャクの尾羽状に広がる(写真 2)。幼虫の行動は素早く、飛び跳ねた瞬間に毛束を格納する(写真 3)。卵は白色、楕円形で直径約 1 mm。本虫は終齢幼虫から蛹を経ず成虫になる不完全変態の昆虫である(出典：『植物防疫所 病虫害情報』第 140 号 (2026.1.21))。
  - (2) 極めて広食性であり、多くの木本植物やキク科の草本植物に寄生する。果樹では、カンキツ、キウイフルーツ、モモ、カキ、クリ、ブルーベリー等での発生が報告されている。  
成虫、幼虫とも新梢を吸汁し、雌成虫は寄主の枝に産卵するが、年間発生世代数など生態は不明な点が多い。
  - (3) 被害の特徴は、集団で樹木の枝を吸汁し、その排泄物にカビが生えすす病を誘発する。また、成虫は樹皮を剥いで産卵するため樹が損傷し、細枝が枯れることもある。
- 5 防除対策  
本虫に対して登録のある薬剤はないため、ほ場内外を注意深く観察し、成虫、幼虫は見つけ次第捕殺し、産卵された枝の除去に努めるなど、個体数を減らす耕種的防除を行う。



写真1 キウイフルーツ 写真2 幼虫 写真3 幼虫 写真4 成虫  
への幼虫寄生 (クジャクの尾羽状) (毛束を格納した状態)

○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

